

研究所だより

第434号
2021年10月 8日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“ あれ松虫が 鳴いている ちんちろ ちんちろ ちんちろりん
あれ鈴虫も 鳴き出した りんりんりんりん りいんりん
秋の夜長を 鳴き通す ああおもしろい 虫のこえ ”

『虫のこえ』 文部省（文部科学省）唱歌 1912（明治45）年



～収穫の秋・紅葉の秋 日本ジオパーク認定～

朝晩の肌寒さに深まる秋を感じるようになりました。暦の上では8日は“寒露”、「野草に冷たい露が宿る」という意味です。この頃は、秋も深まって山では紅葉も色づき始めると言われています。吹く風や周りの景色は着実に秋色に変わりつつあります。

9月25日（土）日本ジオパーク認定の発表があり、ついに「土佐清水ジオパーク」が認定されました。「国立公園と連携した拠点施設の整備・運営やジオガイドによる質の高いジオツアーの展開、教育現場との学習プログラムづくりや地域防災への優れた取り組みが進められている」などが評価されたようです。

今年度、ジオパークを授業に取り入れた学校が高校を含め全8校に広がっています。（高新より）

本市には「土佐清水市のくらし小学校3・4年生社会科」、「学習プログラム集」、「土佐清水で学ぶ大地のなりたち」、「土佐清水を自由研究する地域研究誌《アオサバラボ》」などの副教材がありますので、各学校で活用していただければ幸いです。



（月刊日本教育 6月号）から

GIGAスクール構想 一人一台端末時代の学校づくり

第2回 日常的に触れることが大切

玉置 崇 教授（岐阜聖徳学園大学教育学部）

1. まず端末に触れさせよう

あなたの学校では、一人一台の端末が稼働しているでしょうか。端末が学校に届いてわずか一、二ヶ月だと思えますが、すでに稼働率で学校間格差があるようです。子どもが今日の授業で端末を使ったかどうかを聞き、それをネットで発信している保護者がいます。今の時代に、学校内のことだから外部に知られることはないだろうという感覚は通用しません。端末を保管庫に入れたままの学校は、すぐにでも出して、子どもたちに触れさせましょう。

2. 走りながら考える

早々に子どもたちに端末に触れさせた学校からは、様々な知見が届いています。総じて、「案ずるより産むが易し」という見解です。大きな問題が発生したという情報は聞こえていません。

平成10年度の古い話にはなりますが、端末活用についての貴重な経験があります。私が勤務していた市では、当時としては珍しく、全ての中学校の各教室にコンピューターが一台ずつ設置され、ネットワークにつながっていました。しばらくすると、市内のいくつかの学校からトラブル事例が報告されるようになりました。マウスに入っているボールを取り出して、生徒が遊んでしまうという事例です。我が校では、そのような問題は発生しませんでした。



トラブルのあった学校には、共通していることがありました。「コンピューターは教師が授業で使うものだから、生徒は触れてはいけない」というルールを作っていたのです。

しかし、我が校は休憩中であれば、生徒は自由にコンピューターを使って良い、インターネットに接続しても良いという方針でした。いたずらをして触れることを禁止されてはいけないと、生徒たちはとても大切に扱っていました。なぜなら、コンピューターはとても便利だと知っていたからです。

こうしたことから、「使うことを制限するより、この道具は有用なものだという認識を持たせた方がよい」という知見を生徒から教えてもらいました。

したがって、端末活用について、学校全体の方針が十分に定まっていなくても、まずは子どもの身近に端末を置くことです。走りながら考えるという方針でよいと思います。

3. 子どもが子どもに教える

ある学校の事例です。初期段階で、低学年にはパスワード入力がとても大変で時間がかかることに気づいたそうです。先行して行った担任から、「初めての体験とはいえ、パスワードを入れるだけでこんなに時間がかかっているのは、端末を使う気持ちが削がれてしまう」という嘆きが聞こえたそうです。確かに担任一人で指導するのは大変です。

そこで生まれたアイデアが6年生の子どもが下級生に教える体制です。張り切って教える6年生の姿が目には浮かびませんか。このように課題を解決する方法はあるものです。

クラウドという言葉が知らなくても、共通ドライブにデータを保存することをごく普通に行う子どもがいます。驚くのは教師ばかりで、子どもたちは、その子どもの操作を見て、「そうか！そうやればいいんだ」と、すぐに真似して飲み込んでしまいます。

ある教師は、「子どもたちが自由にクラウドを活用する姿に教師が慣れることだ」と口にしました。



4. 日常活用することを一つ決める

全校で取り組める日常活用例を一つ決めることをお勧めします。

例えば、登校したら、自分の端末を保管庫から出して、自席に持ってくる約束はどうでしょう。授業で端末を使うために保管庫から持ってくるように指示したところ、大勢の子どもたちが保管庫前に集中してしまい、時間がかかってしまった例を耳にします。あらかじめ自席に持ってきて、机の中や横のバックにいれておけば、この問題は解消します。

朝の時間ですから、ある程度自由に端末を使わせればよいでしょう。その中で、昨日の学校のホームページを見るという習慣を作ってはどうか。ホームページに、昨日の学校の写真を一枚ずつアップしておくだけで、子どもたちは、毎朝楽しみ見ることでしょ。また、学級日誌をクラウド上に作っておき、日直が「今日の学級」を入力しておくこともよいでしょう。級友がどのようなことを記入したか興味や関心を持つはずですよ。

また、「心の天気」というアプリを導入して、端末活用を日常化させている学校があります。「心の天気」は、「はれ・くもり・あめ・かみなり」の4つの天気から、今の気持ちに近い天気を子どもがクリックするだけのものです。たったこれだけですが、担任には、「この子どもは『あめ』が2日続いている。何かあったのかもしれない」と言った、子どもからの情報を目にする事ができます。さらにその情報を子どもとのコミュニケーションのきっかけにしている学校もあります。

＝第3回教研推進委員会＝

10月5日(火)に第3回教研推進委員会を開催しました。各校から多くの貴重な感想・意見等をいただきました。ありがとうございました。協議・承認された内容について報告します。

1. 協議

(1) 一日教研(8/4)の反省

①期日

今まで通り8月第1週の水曜日に開催する。状況に応じて柔軟(オンライン等)に対応する。

②内容(抜粋)

午前・講演『先端技術の活用による学びの個別最適化～ICTやAI等の先端技術の活用～』

- ・タイムリーな講演会だった。
- ・情報機器の活用、特に導入されたばかりのタブレットについて研修できたので良かった。
- ・実際に操作しながらの研修で分かりやすかった。

午後・部会

(小)

- ・実践交流、半日教研の指導案検討、タブレットの活用について具体的に研修できたので、充実した研修になった。低学年や集合学習など子どもや学校をつなげる準備ができた。
- ・タブレットを用いた研修は、今後のICT学習に資する有為な内容であった。
- ・各部会の課題に基づいて研修を深めることができ良かった。次回の授業研に向けて教材研究や学力課題について小中で話し合う機会がとれた。

(中)

- ・教材づくりをしたり情報交換をしたりして充実した内容だった。
- ・授業実践、指導案をもとに話し合い、ICTの活用法、効果について話し合うことができた。

③会場

- ・公民館の駐車場(狭い)が満車の場合は、清水小学校駐車場を利用する。

④来年度に向けて

- ・希望分野や講師について協議しました。
協議の結果、
第1希望として、内田 良准教授(「働き方改革」)に再度お願いする。
第2希望として、学力関係、特別支援教育(児童生徒理解)、学校間連携の分野で推薦する講師を選出する。

(2) 2022(令和4)年度 第72次土佐清水市教育研究集会一日教研日程について

①期日: 2022年 8月 3日(水) 予定

②会場: 中央公民館

③講師: 調整中

2. その他

(1) 半日教研: 11月10日(水) 13:45～16:45

* 詳細については、事務局から各校に案内(開催要項)を送付します。

* 旅費: 「学校担当旅費」

(2) 第4回教研推進委員会

・期日: 11月30日(火) 16:00～

・会場: 教育センター

・内容: ア 半日教研総括

イ 2022(令和4)年度教研(組織、一日、半日)の日程、講師、部会構成等について

～第1回学力向上検討委員会～

9月24日(金)に第1回学力向上検討委員会が開催されました。委員会の構成メンバーは、校長会を代表して幡陽小: 渡辺 昌幸校長、清水中: 斧川 哲也校長、研究主任を代表して清水小: 吉岡 身佳教諭、清水中: 橘 智子教諭、教育委員会の永野 美華子指導主事並びに研究所の橋本・勝間の7人です。今年度の委員長に渡辺校長、副委員長に斧川校長が選出されました。

協議では、はじめに設置要項等の確認をし、(1)令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について各校の分析状況について、(2)今後の学力向上に向けた取組について、(3)令和3年度高知県学力定着調査について、(4)その他 更なる学力の向上に向けた課題と今後の方策などを話し合いました。

＝協議内容＝

(1) 各校の分析状況について(小中学校の提出資料から)

自校の学力調査の結果を、『誤答分析』『問題別・内容別の正答率』『強み・弱み別分析』といった方法で行われていた。また、分析結果より自校の状況を考慮した改善策もしっかりと明記されていた。会の中では、土佐清水市全体の結果をもとに、情報共有を行い、今後の学力向上に向けた取組について話し合いを行った。

(2) 今後の学力向上に向けた取組について

学力調査で大きく伸びている学校は、授業改善が進んでいる。本市でも、資質・能力ベースの授業研究をすること、学力調査に向けた対策を立てて取り組むことが大切であることを確認した。また、各校の実践を見合い、交流していくことも必要だということを確認した。

(3) 令和3年度高知県学力定着状況調査について

小学校 令和3年12月 7日(火) 一日で全教科実施

中学校 12月 7日(火) 国語・社会・数学

12月 8日(水) 理科・英語

* 教科の実施順序は、小・中とも各校で決めてよい

(4) その他(更なる学力の向上に向けた課題と今後の方策)

- ・各校で分析したことを実践・検証し、達成率を確認していくことが大事である。

※詳細については、教育委員会からの報告文書(議事録)をご確認ください。

「土佐清水市のくらし」

土佐清水市小学校3・4年生社会科用(改訂版)

